荷受けフォーム組立マニュアル

●ご使用になる前に

荷受けフォームは建設資材の搬出入の際、クレーン等で吊り上げた資材を仮置きするために設置することを目的とした枠組足場用の荷受け架台です。
ご使用にあたっては下記の注意事項、警告内容等を守り、正しくご使用下さい。

●注意事項

①取付け金具のボルト、ナットを本締めするまでは、絶対に足場板の上に乗らないでください。
②荷受フォーム本体と建枠の接合部には壁つなぎは必ず取り付けてください。
③荷受フォーム資材に、万一変形や腐食が発生した場合は使用しないでください。

1．積載荷重

荷受けフォームを取り付ける枠組み足場の高さ及び幅により許容荷重は表1の許容積載荷重表の値になります。

表1　許容積載荷重表

建枠の幅(mm)	2層以上11層以下	12層以上20層以下	21層以上26層以下
914	750kg/スパン	600kg/スパン	500kg/スパン
	2層以上13層以下	14層以上20層以下	21層以上26層以下
1219	750kg/スパン	600kg/スパン	450kg/スパン

許容積載荷重は表示板、安全看板等で明示して下さい。

2．安全帯の使用

足場内より組立(解体)の場合、手摺枠及び手摺の取付(解体)時には必ず安全帯を使用して作業を行って下さい。

3．壁つなぎ

・壁つなぎは、荷受けフォームの設置面及び斜材設置面の当該スパン全てに取り付けるものとします。(梁枠を取り付ける建枠の躯体側2スパンで2×3＝6個、3スパンで2×4＝8個)
・壁つなぎには、仮設工業会認定品を用いるものとします。
・壁つなぎを設置する位置の躯体側強度は、事前に十分な強度を有することを確認するものとします。

4．足場の積載荷重

足場に積載する荷重は、1スパン当たり400kg以下とレ連続して同時に積載する場合は、2スパン以下、また同一スパンに積載する場合は2層以下とする。

5．その他の荷重

落下防護用部材(手摺、養生枠、朝顔など)を用いる場合は、それらの部材重量を基に別途ステージへの積載許容荷重の算出を行うものとする。また、風荷重については、仮設工業会の示す安全技術指針に従い検討を行うものとする。

6．許容荷重の表示

計画に基づき検討し設定した許容荷重は、荷受けフォーム上の見易い場所に表示を行うものとする。

7．禁止事項

荷受けフォームへの載荷は短時間とし、長時間の仮置き場として使用しないこととする。また、載荷に際しては、衝撃力を伴う積載作業を行わないこととする。
使用部材は指定した部材であり、変形、腐食などの認められる物は、使用してはならないものとする。更に、代替部材あるいは改造部材の使用は禁止するものとする。

8．荷受けフォーム設置の制限(同一層)

荷受けフォームは連続設置スパンは3スパン以下とし、かつ、同一層内に複数設置する場合は下表に示すとおり間隔を開けるものとする。

荷受けフォームの設置スパン	同一層内での設置間隔	両側端のスパン数
1スパン	1スパン以上	1スパン以上
2スパン	2スパン以上	2スパン以上
3スパン	3スパン以上	3スパン以上

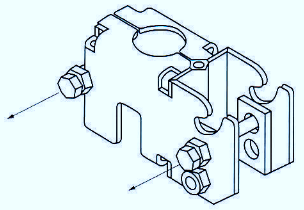
9．荷受けフォーム設置の制限(同一スパン)

荷受けフォームは、同一スパン内に2箇所以上設置しないものとする。

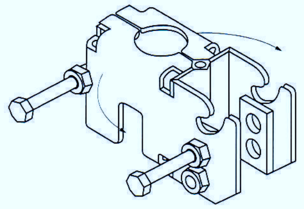
●枠組み足場内での組立(高所組立)の場合

1．取付金具設置

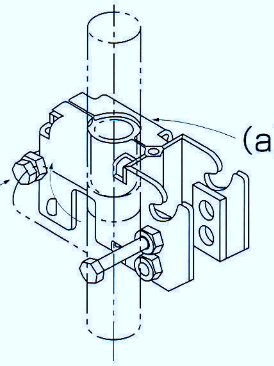
荷受けステージを設置する層、及びその下層の当該スパンの建枠接合部に、取付金具を取り付けます。(2スパンで6個、3スパンで8個必要)



①2組のボルト、ナットをあらかじめ、緩めて引き出しております。



②矢印の向きに金具を開きます。



③建枠の建地を挟み込むように金具を取付（a）ボルトにて固定します。（b）必ず横架材に乗るように取り付けて下さい。

●荷受フォーム構成部材表(使用例)

	荷受フォーム専用資材							通常枠組資材		
	本体(斜材付)	手摺枠	取付金具	巾木L	巾木S	吊り材	専用手摺柱	踏板	筋違	手摺布
品番	NUA01A	NUA02A	NUA03A	NUA04A	NUA05A	NUA06A	NUA07A	SKN-6	A-14	A-31
1スパン	2	2	4	1	2	2	0	3	1	2
2スパン	3	2	6	2	2	3	1	6	2	4
3スパン	4	2	8	3	2	4	2	9	3	6
4スパン	5	2	10	4	2	5	3	12	4	8
5スパン	6	2	12	5	2	6	4	15	5	10

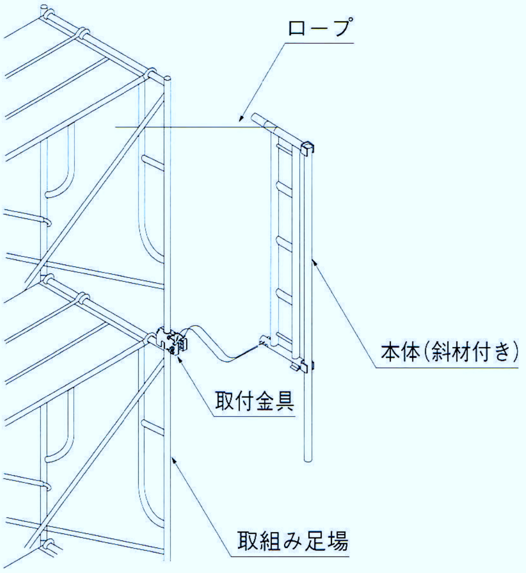
(注意)使用スパンは原則1829mmを基準にしています。その他のサイズを使用する場合、巾木Lの適用品の設定かありませんのでご了承ください。
メーター部材を使用することもできます。この場合、通常枠組資材をメーター規格に変更してください。
巾木Lの適用品の設定はありません。

荷受けフォーム組立マニュアル

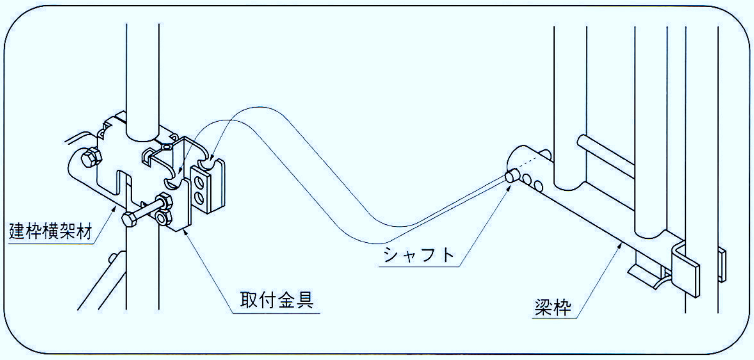
2. 本体(斜材付き)の取付

・各本体の先端に、展開用のロープを取り付ける。(ロープは3m程度のもの)

・先ほど取り付けた金具の層でロープで本体を引き上げ、本体建地に取り付けられたシャフトを、取付金具上部の凹部に掛けます。



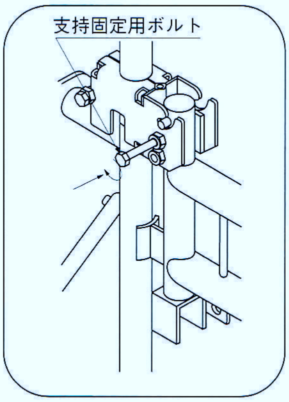
●取付部分詳細図●



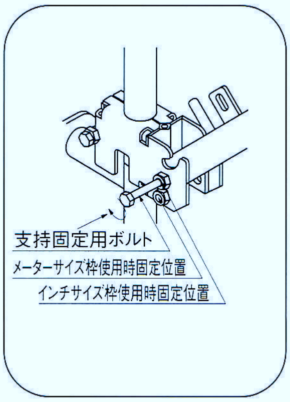
・下層にてこの斜材を支持しながら、上層で徐々にロープをゆるめ本体を展開していきます。
この時下層にて作業される方は斜材に手を添える程度にして、上層にて梁枠の展開をコントロールします。

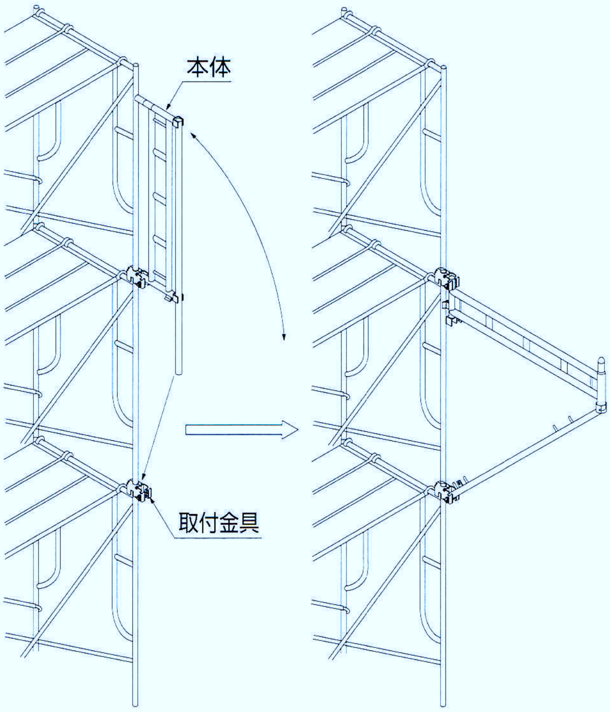
・斜材を支持固定用ボルトにて取り付け固定します。建枠がメーターサイズの場合はボルト位置を変更して下さい。(下図参照)。
続いて本体も同様にボルト、ナットで固定します。

●梁枠固定方法●



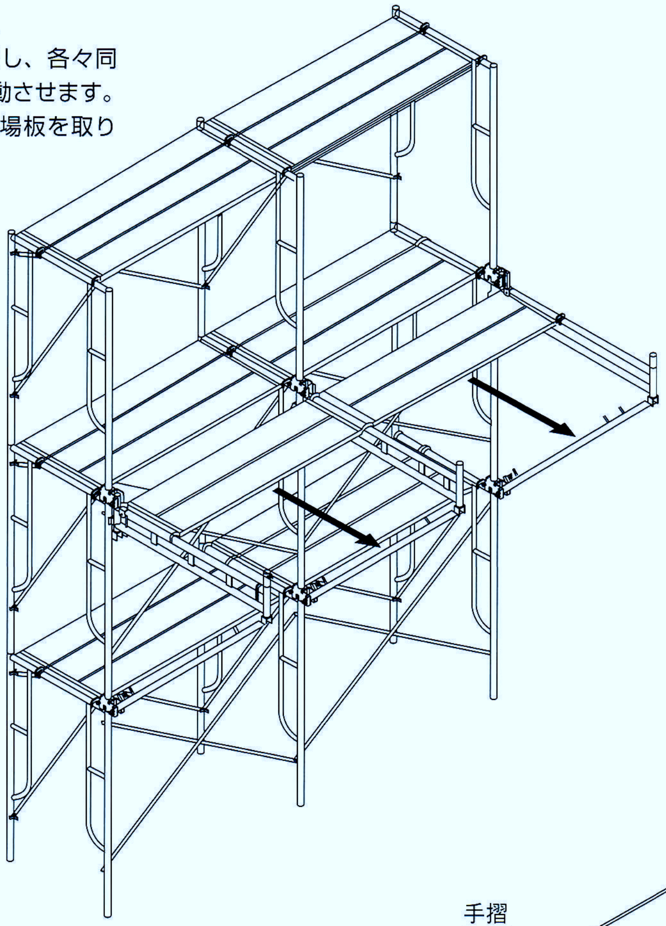
●斜材固定方法●





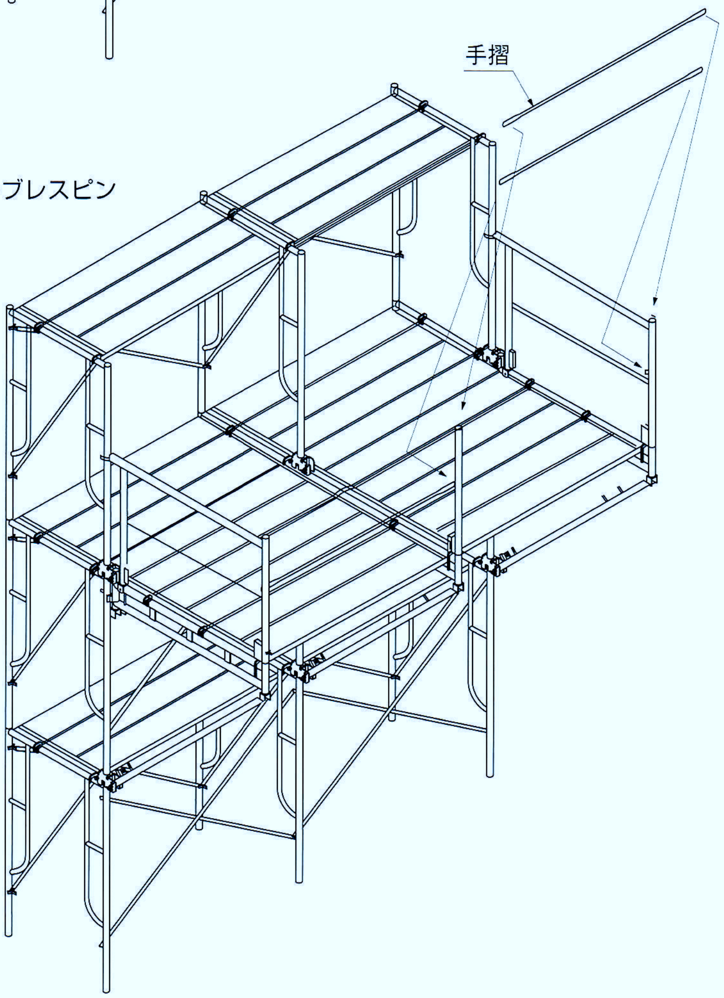
3．踏板の設置

設置スパン分の梁枠を取り付けた後、
①各スパン1枚ずつの足場板を設置し、各々同時に梁枠先端へ押し出すように移動させせます。
②同じ手順で各スパンに2枚目の足場板を取り付けます。



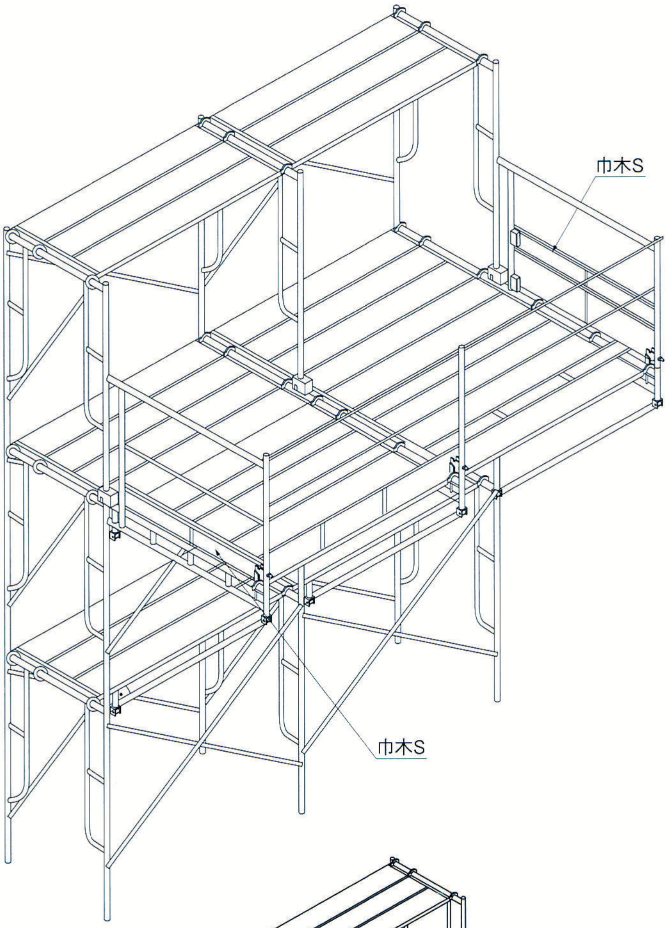
4．手摺の取付

手摺および串桟を手摺枠、手摺柱のブレスピンに取り付けます。

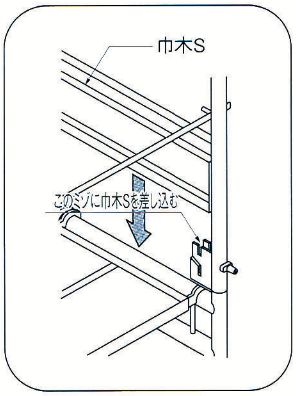


5．巾木Sの取付

巾木Sは手摺枠のガイドに差し込みます。

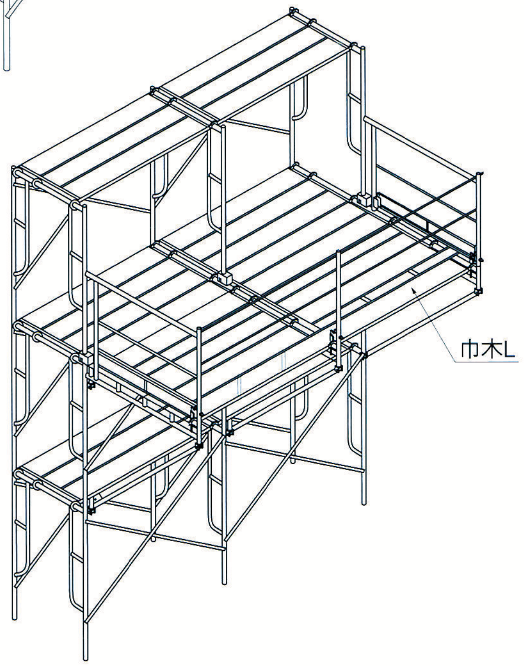


●巾木S取付方法●

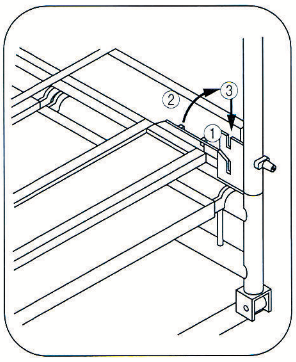


6．巾木Lの取付

・巾木Lは手摺枠、手摺柱下部に付いている金具にミゾに巾木L端部のリベットを合わせ(①)、スライドさせながら、(②、③)はめていきます。

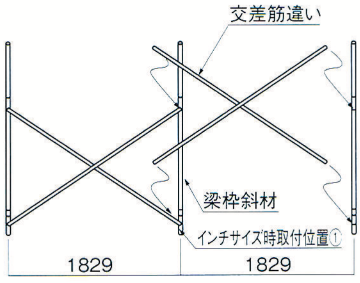


●巾木L取付方法●

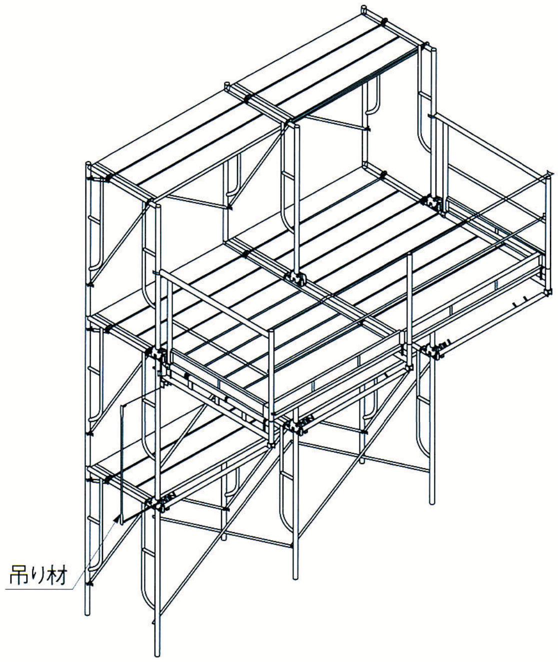


7．交差筋違いの取付

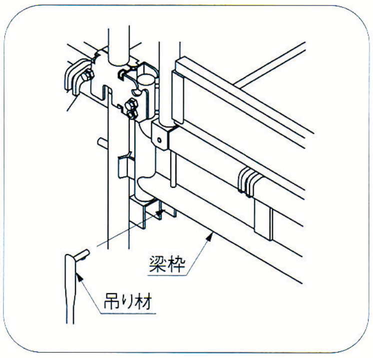
・各斜材間に、交差筋違いを取り付けます。交差筋違いを取り付けるブレスピンはインチサイズ、メーターサイズにより異なります。
取付時には下図取付位置①から取り付け、次に取付位置②のブレスピンに交差筋違いを取り付けていき、取り外しの際は②、①の順に取り外します。



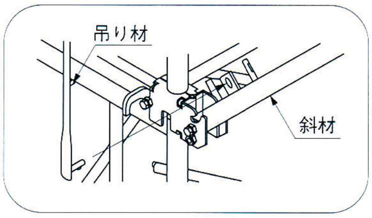
8．吊り材の取付
・施工工程に伴い盛り替えを行う場合は、本体と斜材の間に吊り材を取り付けます。
本体、斜材の吊り材用プレートに吊り材をはめ込みます。



●吊り材取付詳細(梁枠部)●



●吊り材取付詳細(斜材部)●



●盛り替え方法

施工計画に基づき荷受けフォームを盛り替える場合は下記の手順で盛り替えてください。
1．荷受けフォーム四隅をワイヤーロープで固定します。(3スパンの場合は中央スパンの四隅)
2．本体と建枠にまたがっている踏板を全て外します。
3．クレーンの吊り上げフックにワイヤーロープを掛けます。
4．取付金具と本体及び斜材を緊結しているボルトを外します。
5．クレーンにて上階の取付位置に移動させます。
6．取付金具のもう一方のボルトも外し上階の設置位置に付け替えます。

●解体方法

枠組み足場内からの解体
1．組立時に使用したロープ端をそれぞれの本体の先端に結び、一方の端を建枠の適当な所に結んでおきます。
2．必ず安全帯を使用して、巾木L、巾木S、手摺(中桟)。手摺柱、手摺枠の順で外していきます。
3．組立と逆の手順で踏板を外します。
　・本体と建枠の両方に掛かっている足場板を外します。
　・2枚目、先端の踏板はラチェット等で引き寄せて外していきます。
4．下層で斜材の支持固定用ボルトを外レ上層で本体の支持固定用ボルトを外します。
5．斜材を支持しながらロープを引き寄せ本体を収納します。
6．最後に取付金具を外します。

安全のため、クレーンを使い地上での解体方法を推奨します。

クレーンを使った解体
1．組立時と同じ位置にシャックル、ワイヤーロープを取付、クレーンのフックに掛けます。
2．手摺枠と建枠を固定しているクランプをゆるめます。
3．本体と建枠の両方に掛かっている足場を外します。

ここからの作業は全て枠組み足場内で行ってください

4．クレーンのみで支持できることを確認してから下層で斜材の支持固定用ボルト、上層で本体の支持固定用ボルトを外します。
5．クレーンで地上におろします。(完全に接地させずに少し浮かしておいてください。)
6．吊り材を外し、さらにクレーンで接地させてワイヤーロープを外します。
7．巾木L、巾木S、手摺(中桟)、手摺柱、手摺枠の順で外していきます。
8．最後に踏板を外し、単管、クランプを外します。